

# 郡部巻き込む激戦

## 田川市長選

現職と新人3人の計4人が立候補した田川市長選（26日投票）は、田川郡7町村の首長や議員、国会議員や県議を巻き込んだ激戦になっている。自民推薦をめぐる攻防に続き、相手陣営への批判も過熱。市民からは「田川を良くするための選挙が、かえってイメージを悪くしている」「人間関係が壊れるので選挙には関わりたくない」との声も漏れる。

## 応援演説で批判合戦

## 町長や議員入り乱れ

2015  
統一地方選

筑豊

糾。県連と11区支部が互いに相手の処分を党本部に求める事態に発展したが、最終的には県連が二場氏の推薦を決め落ち着いた。

自民推薦をめぐるのは、現職の伊藤信勝氏(69)と新人の二場公人氏(58)がともに推薦願を提出。2月の自民党県連年次大会では、統一地方選での推薦をめぐる衆院福岡11区支部の関係者が執行部席に詰め寄り紛

糾。県連と11区支部が互いに伊藤氏の応援演説をした神崎氏は、自民党県連年次大会紛糾問題に触れ「日本中の人が田川の選挙に注目している。田川市は田川地域良太衆院議員」との溝を深める伊藤氏は、11区に隣接する8区選出の麻生太郎副総理兼財務相と連携。3月、麻生グループ出身で田川郡区選出の神崎聡県議と共同で市民集会を開き、麻生氏も招いて密接な関係をアピ

きでは、永原謙二・田川郡町村会長が、二場氏の義兄であることを告げた上で「田川市のリーダーには田川7町村を引っ張ってもらいたい。兄として政治家として、みなさんをお願いしたい」と声を詰まらせ支持を訴えた。伊藤氏寄りの麻生氏については「よその選挙区の代議士に頼んでも田川のことをしてくれませ

らみのある政治にしかならない」と批判。出陣式では「今の田川市に必要なのは、しがらみのない市政と強いリーダーシップ。仏教の言葉に『一隅を照らす』という言葉がある。市民一人一人に隅々まで平等、公平に光を照らす政治をしたい」と訴えた。

「しがらみ増す」「遺恨残る」の声も

初挑戦の新人の金子和智氏(44)も「田川の未来について真剣に論戦をするべき選挙なのに、しがらみだらけの悪いイメージばかりが全国に発信されている。遺恨が残るだけであまりのためにならない。市民も嫌気が差している」と指摘。政治風土を変えようと、筑豊地区内の若手候補者らと共同で、若者に対して選挙の重要性を訴えるパンフレットを作製。飯塚、田川、直方、嘉麻の各市を中心に飲食店やカラオケボックス、大学などに置いて投票に行くよ

呼び掛けている。  
(中川博之)



4人のポスターが並ぶ田川市長選の掲示板